懇談会

未来を創る　Z 世代のキャンパスライフ

コーディネーター　金沢工業大学　建築学部　講師　藤井　健史　氏

（藤井）　今日はフランクな感じで進めていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

川瀬さんから、Z世代のキャンパスライフというテーマをいただきました。言い換えれば、今時の学生がどのような生活をしているのかについて、お話をさせていただきます。

私は、立場上学生と日々生活を共にしています。今、お手元に配らせていただいた資料は、最近の学生はこのような特徴があるのかな？ってところをおもいつくままにツラツラと書いただけのものなんですが、皆様と話し合いながら、質問があれば、私の（考える）範囲でお答えさせていただきたいと思いますが、昔と比べてどうか？となると、私もある時代しか学生をやっていなかったので、むしろ、皆様の時と比べてどうか？というところを話し合って、私も参考にしたいと思います。

学びのスタイル

（藤井）　最近の学生は、単位とか成績をかなり気にします。で・・出された課題には一生懸命に取り組むんですが言われていない学習に自分から飛び込んでいく者は少ないように思っています。

ただ、私の研究室の専門は、建築情報（情報技術の活用）で、この分野に興味をもった学生が集まっていますので、プロミングを独学で学んでいる学生の姿は見かけます。しかし、これ面白そうだから勉強をしてみようという話はあまり聞かない。「勉強をする気持ちがないということではないが何をやればいいか？ということについて自分ではちょっと・・」というふうに見受けます。また、「効率が悪かったり目的が見えないまま何かをやる」ことを嫌がります。そこに時間をかけることを嫌がっています。

調べ物は、もっぱら「まずインターネット」ですね。本はほとんど読んでいないような感じに見受けます。

（先川）　今の俺たちと一緒やなぁ

（藤井）　図書館には、（本日見て頂いたように）あれだけの文献がそろっています。勿論、活用されるという部分では十分であるんでしょうけれども、最初は「先ず、スマホで調べる」というパターンが多いですね。

授業では、今年度からコロナ禍の状況から戻りましたが、Zoom というツールが浸透しており「場面・場面で便利な道具」として使われています。授業や打ち合わせにも使われていることから、今後も活用されていくという感じがしています。

交友関係

ここは、今も昔もあまり変わっていないように感じます。観察をしてみますと仲間と一緒に行動をして授業に出かけたり、話をして、たまに恋愛の話を入れたり・・と。

「最近の若者は酒を飲まなくなった」と良く言われます。確かに、そのような人が増えているという印象はありますが、飲み会のような集まりは好きなようです。フジケン（藤井研究室）の学生は、よく飲み会を催してはしゃいでいます。このあたりは、私らの学生の時とあまり変わらないと思います、

連絡手段は、もっぱら Line ですね。メールは連絡が取れないケースが多く Line はそうではない。研究室でもグループ Line で繋いでおり、それで業務連絡のような内容まで伝えることがあります。

地域活動への参加意欲

うち（フジケン）の学生は、建築関係なので、（私は）そのように感じるのかもしれませんが、皆さんが想像をされているよりも興味を持っている学生は多いと思います。自分の専門が活かせるというのは、教室にいるだけでは実感する機会が少ないので、社会に出て行って、実際に活動に参加して、そこで実感できることがあります。そういう意味で積極的に参加をする学生は結構多いと思いますし、地域の人との交流も楽しんでいるようです。

つい先日に、常盤学区にある志那の神社で活動をしたときは、金沢から学生が来てくれました。私（金沢工業大学）のゼミに今12人の学生がいて、参加の意志を聞いてみたら全員参加をしたいという結果でした。

これは、呼びかけをした立命館大学に新しい友人ができることへの期待感があったように思いますが、地域社会に出て一緒やってみたい気持ちも働いていたように感じました。

コロナ禍、特に今の4年生は家に閉じ込めじ込められた状況に置かれていましたので、その反動もあるように思います。

神社をオブジェでコーディネート
大学生が魅力引き出す 滋賀・草津

毎日新聞
4/20(木) 7:45 配信

境内の竹で作った風車が並ぶ参道＝滋賀県草津市志那町の志那神社で2023年3月27日午後2時29分、礒野健一撮影

神社の魅力を再発見してもらおうと、立命館大（京都市）と金沢工業大（石川県野々市市）の学生が、滋賀県草津市内の3神社にオブジェ5作品を設置した。各神社の歴史や特性を踏まえた作品で、常設ではないものの、境内の花の見ごろや祭りなどの際に活用していく。

企画したのは金沢工業大建築学部建築学科の藤井健史講師（38）のゼミ生12人と、藤井さんが2021年度まで助教を勤めていた立命館大理工学部建築デザイン学科の学生13人の計25人。

余暇の過ごし方

インドア派、アウトドア派など人によってさまざまですが家で過ごす人はテレビと You Tube になると思います。ゲームは、たぶん、昔と違ってon−lineで人と人が遊ぶ、いわばon−line上のゲーム仲間が存在するという状況もあり得ます。

しかし、みんな閉じこもっているというのではなく、カフェに入ったり、散歩が趣味という学生は、研究室にもいます。

だた、金銭的に余裕がないと考えている学生は、昔と比べて多い/少ないの判断はしかねますが、「立命館大学にいるときよりは、働き始めた今のほうが金銭的な余裕がない」みたいな話も聞きます。

生活費を稼ぐために結構バイトに忙しくしている学生は多いと思います。学習に向ける時間がとられるのでもったいないと思う一方で、お金がないと暮していけないという事情を抱えていて、奨学金を借りている学生の中には、大学院に進学をするとなるとさらにお金がかかるので、断念をする学生もいます。

このあたりが、余暇の過ごし方（On-line や You Tube）に影響しているように思いますし、使えるお金というとあまり持っていないというのが現実であろうと思います。

その他

　これは、昔からそうですが、朝はめっぽう弱い。
また、最近の学生は忙しくなると「ブラック」と口にします。このことを個人的には危惧しています。学生は社会に打って出るために力を付ける立場の人間です。そうなると、やはり歯を食いしばって頑張らないといけないときもあります。社会全体として、働き方やライフワークバランスを考えることは重要でしょうが、「ブラック」という言葉が頑張らなくてもよい免罪符のように使われるのは非常にマズイ。特に学生は、若いうちに頑張っておかないと後々苦労すると心配したりしています。

　就職本位といいますか、安定志向の価値観を持つ学生、ここ10年くらいこのような傾向が続いていると思います。結構、低迷の時代を幼少期から過ごしてきている世代なので、「何とかなる」という楽観的な考え方は、なかなか持てない。これは、良い悪いの話ではないでしょうが、それにしたって、「何とかなると楽観的に割り切れる学生の割合が少ないなぁ」と思います。
最後に、ちょっと難しいですがシンギュラリティが想定よりも早くやってくると最近話題になっています。何をするにも AI の方が人間より優れているという時代が来るかもしれない。そうなると、人間がやることがなくなります。「人間は何のために頑張るのか？何のために生きるのか？」という価値観が今とはだいぶ変わるかもしれない。Z世代の若者がそういう状況をどう捉えているのか、個人的に非常に気になります。

シンギュラリティ（Singularity）とは？
「特異点」を意味する英語で。「人工知能（AI）」が人類の知能を超える転換点（技術的特異点）。概念であるが、人間の生活や社会で就労の職業が代替されることによって多くの失業者が生み出されるなど、無人決済コンビニや自動運転などで徐々に人間の仕事や人口知能が代替され、社会生活におおきな変化が引き起こされるという研究結果もだされています。

ばらばらとした感じでしたが、一応話題提供ということでお話させていただきました。
それでは、懇談に移ります。皆さんから何か話題にしたいことがあれば、お願いします。

【話題1】 中学あたりですとインターシップすなわち社会に出る前に職場体験をするという試みがされていますが大学においては就職に結びつけるための選択肢という見方ができます。これは、学生個人で探しているのか、大学側でも紹介制度の形があるのでしょうか？

（藤井）　両方あります。大学で紹介する場合は学校というよりは学科の単位で照会先の関係が作られて照会された学生は就職先の職場として挑戦するというパターンが多いように思います。
　実際的に就職の話となりますと、力が認められて採用に有利という場合もありますが、全てにあてはまる訳ではありません。

【話題2】 我々の時代は、学生運動が盛んでしたが、今は、如何でしょうか？

（藤井）　ほんと、（ここでは）何もないです。学生運動という言葉自体を知らないです。

【話題3】 立命の学生と聞くと、裕福な子しか来れないという印象がありますが・・

（A）　評判は、そのとおり。我々の頃の立命のイメージとは、全く逆に感じますね・・・。
（B）　さっきから、やりとりを聞いていましたが、最近の大学は一体どのくらいのお金がかかるのかを教えてもらえませんか？
（C）　理系なら年間 150 万円位、文系で年間100万円位ですかねぇ。
（D）　聞くところによると200万円を超えるという人もいますよ
（藤井）　そんなところですかね
（E）　だから、今は、奨学金を受けている学生が多いとおもいますよ
（F）　奨学金の利率って意外と高いんですね？
（G）　返さなければいけないんですね。あれは・・・　云々

※ お金の話で、どんどんと盛り上がり 話は尽きません。 記録はこのあたりで・・・・

事後アンケートの記録

塾生（団塊の世代）は、藤井先生から見た学生像をどのように受けとめたでしょうか？

区分	項目	強く思う ←			→ 全く思わない
学びのスタイル	単位や成績をとても気にする。出された課題には真面目に取り組むが、言われてもない学習に自分から取り組むことは少ない	1	5	3	1	0
	研究室には、プログラミング等の情報技術に興味を持って独学する学生もいる	1	6	3	0	0
	効率の悪いことや目的の見えないに時間とエネルギーを使うことを嫌がる	1	5	4	0	0
	調べ物はもっぱことらインターネット。本はたぶんほとんど読んでない	3	5	2	0	0
	授業や打ち合わせは基本対面だが、zoomが浸透し今後も活用される見通し	0	8	2	0	0
交友関係	基本的には今も昔もあまり変わらないのではないか。仲の良い数人で行動していることが多い。学科内の恋愛も昔に違わずポツポツ聞く	0	4	6	0	0
	最近の若者は酒を飲まないとよく言われる。確かにそういう人も増えている印象	0	7	3	0	0
	連絡手段はもっぱらLINEなどSNS	4	6	0	0	0
地域活動	自分の専門が活かせる、おもしろそうな地域活動には興味を持って参加している	0	4	5	1	0
	地域の人たちとの交流も楽しんでいる	0	4	4	2	0
	参加しようとする気持ちのなかにコロナ期間に家に閉じ込められた反動というのもあるかもしれない	0	8	0	2	0
余暇・金銭意識	家で過ごす人は、たぶんテレビよりYouTubeやゲーム。ゲームはオンライン上でゲーム仲間と交流している場合もあると思う	3	5	2	0	0
	カフェ巡りや散歩が趣味という人もいる	0	3	7	0	0
	部活やサークルに精を出す学生も多い	0	7	2	1	0
	金銭的に余裕のない学生（家庭も含め）は多い	1	4	5	0	0
	学業の時間が減るのはもったいないと思うが生活費や交友費を稼ぐためバイトに忙しい。	1	6	3	0	0
	奨学金を借りている学生が多数いる	1	3	5	1	0
	大学院進学を断念する理由の多くは金銭的事情	0	7	2	1	0
その他	朝はめっぽう弱い	1	5	3	1	0
	ブラック／ホワイトというに敏感。「ブラック＝悪」の落とし穴にはまっている	1	3	6	0	0
	就職本位、安定志向の価値観	0	6	3	1	0
	低迷の時代を長く経験したせいか、「何とかなる」の楽観精神が持てない	0	4	6	0	0

（参考資料）

Z 世代とは

（Wikipedia より抜粋）

Z 世代（ジェネレーション Z）とは、アメリカ合衆国をはじめ世界各国において概ね 1990 年代中盤から 2000 年代終盤、または 2010 年代序盤までに生まれた世代のことである。生まれた時点でインターネットが利用可能であった人類史上最初の世代（いわゆるデジタルネイティブ）でもある。

Y 世代（ミレニアル）に続く世代であることから「Z」の名が付いている。

日本においては概ね 1995 年（平成 7 年）の阪神・淡路大震災後から 2011 年（平成 23 年）の東日本大震災までに生まれた世代に相当する。主に 2010 年代から 2020 年代に掛けて社会に進出する世代となる。大半が X 世代（日本ではバブル世代・団塊ジュニアに相当）の子供世代に当たる。

生まれた時点でインターネットが利用可能であったという意味でのデジタルネイティブ世代としては最初の世代となる。デジタル機器やインターネットが生まれた時から当たり前のように存在し、ウェブを日常風景の一部として感じ取り、利用している世代である。

また、パソコンよりもスマートフォンを日常的に使いこなし、生活の一部となっている「スマホ世代 」でもある。さらに、ビデオ通話サービスの Zoom を多用することから「Zoomers（ズーマーズ）」とも呼ばれる。成長期に Web 2.0 を当たり前のように享受し、情報発信力に長けているため、当該世代からは数多くのインフルエンサーが登場している。

インフルエンサーとは、世間に与える影響が大きい行動を行う人物のこと。その様な人物の発信する享保を企業が活用して宣伝することをインフルエンサーマーケティング（SNSマーケティング）と呼んでいる。

この他、Z 世代と同時期に生まれた若者は、C 世代（ジェネレーション C、あるいはニュー・サイレント・ジェネレーションと呼ばれることもある。

2020 年に始まった新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミックの影響で、義務教育と高等教育の両方で、全社会的に実施された遠隔教育（オンライン授業）を受ける最初の世代となった[]。

2020 年時点で世界人口の約 3 分の 1 を占めており、割合はミレニアル世代を上回る。少子高齢化が世界で最も進んだ日本においては、Z 世代を 2020 年 6 月時点での 10 歳～24 歳（概ね 1995 年（平成 7 年）4 月 2 日～2011 年（平成 23 年）4 月 1 日生まれの世代に相当）と定義した場合、それに当たる人口は 1752 万人であり、総人口の 7 分の 1 弱と少なく、約 13.9%となる。

関連知識

脱ゆとり世代・・・Z 世代と同世代とされることがある。ただし、脱ゆとり教育をすべての学年で受けた年代は移行措置を含めても 2002 年度生まれ以降となる

バブル世代 –、団塊ジュニア ・・・Z 世代の親世代

アメリカ合衆国の世代感

ミレニアルズ、（Y 世代）	Z 世代	α 世代
1981 年-1996 年	1997 年-2012 年	2013 年-2028 年 ?

Z 世代の特徴は？

日常の行動

（リテールガイドより抜粋）

インターネットが普及したのは 1995 年から 2000 年頃のこと。Z 世代は 1996 年以降に生まれた世代のため物心がついたころからインターネットの存在が当たり前だ。

テレビや雑誌よりも、インターネットや SNS で情報を収集し、モノを買う。インターネットの利用時間も長く、総務省「令和 3 年度　情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」によると休日のインターネット利用時間は 10 代で 253.8 分、20 代で 303.1 分。60 代ではテレビの視聴時間が 300 分を超えているのに対し、10 代は 73.9 分、20 代で 90.8 分と短い。

また、「SDGs」が求められる現代であるため、環境問題や社会行動にも関心がある世代と言われている。モノやサービスを消費していくのにも、そこでどんな体験ができるのかや、どんな社会的意味があるのかといった背景に価値を見出す。多様な価値観を容認すると同時に、個人個人の価値観を大切にする世代だ。

職場では・・・

（Indeed　キャリアガイド　より抜粋）

Z 世代に共通して見られる性格や行動上の特徴がいくつかあります。すべての Z 世代がこのような特徴や能力を持っているわけではありませんが、この世代の社員と接する際には、次の点に気付くことが多いです。

仕事で最新のテクノロジーを使用することを望む

Z 世代は、私生活でさまざまなテクノロジーに接することが多いため、仕事でも最新テクノロジーを使用したいと考えます。

実際、「Z 世代」という呼び名が定着する前には、「セルフィー世代」「i 世代」という呼び名も使われていました。

対面でのコミュニケーションを重視する。

Z 世代の多くは、コラボレーションに価値があると感じており、他の人の意見を聞きたいと思っています。Z 世代にとって理想的な職場とは、チームミーティングが毎週開かれて、チームメンバーがその週の成果を発表できるような職場かもしれません

起業家精神を備えている。

Z 世代は、人々がテクノロジーを利用してベンチャー企業を立ち上げ、お金持ちになるのを見ながら育ってきました。デジタルネイティブである Z 世代は、テクノロジーの知識を自らのビジネスチャンスを生み出すために活用する能力を持っています。さらに、クラウドファンディングサイトなどのツールを通じて、開発、市場、金融のアイデアを目にして、ビジネスセンスも備えている人もいます。

上下関係の厳しい職場環境になじみにくい。

Z 世代は子供の頃からソーシャルメディアを活用し、自分の意見を公開したり、リアルタイムで反応を受け取っています。そのため、職場でも自分の意見が受け入れられ、尊重されることを期待する傾向にあります。

負けず嫌い。

Z 世代は、非常に競争が激しい教育環境の中で育ってきておりその場でフィードバックを受け取って改善することに慣れています。古い世代では、提出した宿題の評価を受け取るまで数日あるいは数週間かかるのが普通でしたが、Z 世代にとっては評価の結果がほぼ瞬時にわかるのが当たり前であり、その結果をすぐに仲間と比較する能力を備えています。

各世代の特徴

沈黙の世代 / 伝統主義者
（1945 年以前の生まれ）
快適さと経済的安定を求め、伝統を重んじ、忠誠心が高い

ベビーブーム世代
（1946～1964 年の生まれ）
勤労意欲が高く、勤勉で、軸がブレない

X 世代
（1965～1980 年の生まれ
起業家精神を持ち、ワークライフバランスを重んじ、自立心が強い

Y 世代 / ミレニアル世代
（1981～1996 年の生まれ
ワークライフバランスを重んじ、自信があり、テクノロジーに精通してい

Z 世代
（1997 年以降の生まれ
自立心が強く、起業家精神を持ち、負けず嫌い